浜松の偉人シリーズ ミニ折本【川上源一 編】

A3 サイズで印刷して、線のとおりに切り込みを入れ、折ってください

切る ―――― 山折 ····· 谷折 - - - -

昭和 25 年（1950 年）源一は、病に倒れたお父さんの跡を継ぎ、日本楽器 4 代目社長となりました。

源一は、昭和 28 年（1953 年）実際に自分の目で見て視野を広げるため、90 日間の世界一周視察旅行に出かけました。

源一は、ヨーロッパやアメリカの様子を見て、人々の考え方や生活の豊かさに驚きました。

「戦争が終わって間もないが、アメリカ人は、ヨットやスポーツ、楽器など楽しんでいる。多くの日本人も、生活を楽しむことを知ってもらいたい」と考えました。

5

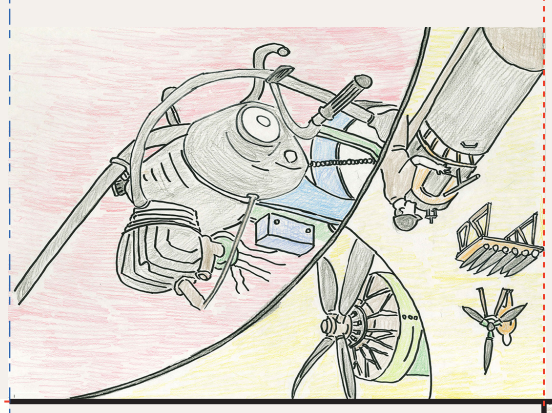
やがて、太平洋戦争が始まりました。浜松でも、アメリカ軍による空襲や艦砲射撃がありました。

そのため、工作機械のあった工場は、そのほとんどが焼けてしまいました。

やっと、太平洋戦争が終わりました。

6

卒業後に、浜松にもどり、昭和 12 年（1937 年）源一は、お父さんの川上嘉市が社長をしている日本楽器（現在のヤマハ株式会社）の社員になりました。



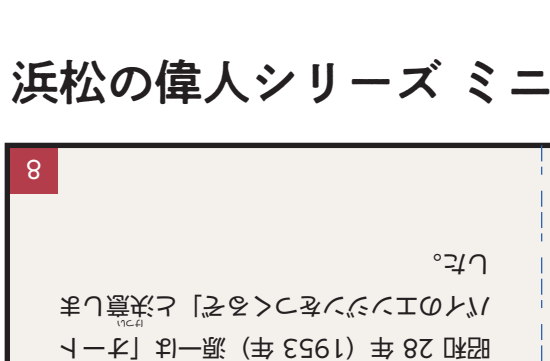
空襲で壊れた工場には、飛行機のプロペラをつくる機械があります。

源一は、これらの機械を活用した仕事はないかと研究しました。

「ミシン、オートバイ三輪をつくろうか。でも、すでにつくっている業者はたくさんいる。ヤマハ発動機 株式会社

7

8



昭和 30 年（1955 年）2 月 YA1 を発売しました。

オートバイの色は黒が当たり前だった時代に、YA1 は「栗毛の駿馬」をイメージしたエンジ色とクリーム色というツートンカラーのデザインでした。

同じ年の 7 月に日本楽器から独立して「ヤマハ発動機」という会社をつくりました。

源一が社長となり、日本楽器の社長も兼ねました。

オートバイづくりは、日本楽器の中のオートバイ部門というかたちで始まりました。

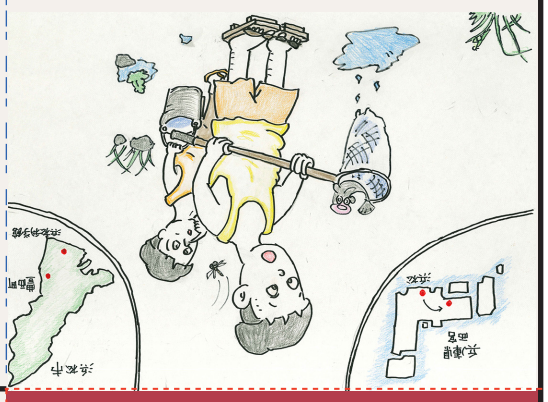
失敗しながらもテストを重ねて、昭和 29 年（1954 年）125cc オートバイの試作車が完成。

9

10

11

12



源一は、明治 45 年（1912 年）今の浜松市中央区豊西町に生まれました。

源一のお父さんの名前は、川上嘉市といい、今のヤマハ株式会社の基礎を築き上げました。

そこで、源一が勉強について、こんなことを言っていました。「記憶力が弱いから勉強は苦手。我なから愛想がつきるほど。」

1

2

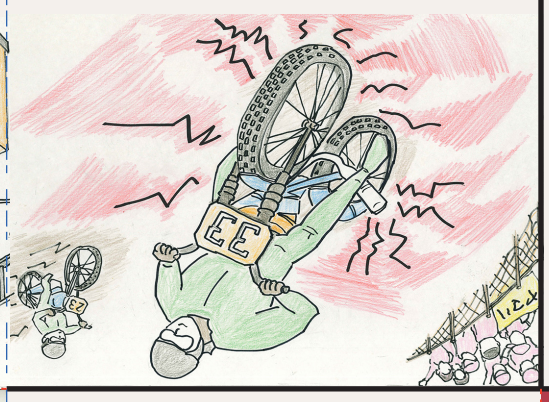
3

4

また、浜松の産業発展に尽くした人物で昭和 35 年（1960 年）に、初の浜松市名誉市民となりました。

その お父さんの仕事のことでうから、源一は、小学校に入る前に浜松から兵庫県西宮市に移り住みました。

その地で、西宮寿常小学校を卒業して中南高等学校（今の中学）に入学しました。

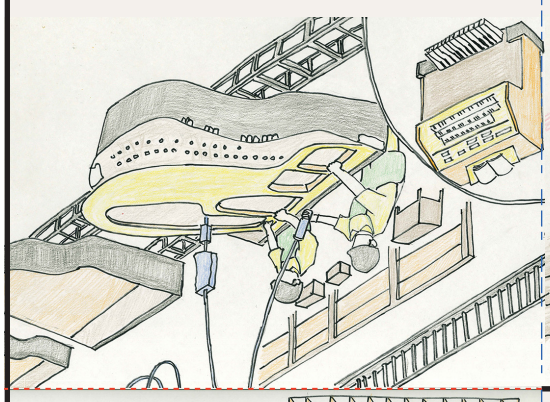


昭和 30 年（1955 年）7 月に富士登山オートレース、10 月には浅間高原ロードレースに参加して、両方のレースで優勝しました。

ここで、YA1 の性能のよさが証明されたのです。

源一は、日本楽器の社長として多くの ことに挑戦しました。

一度にたくさんのピアノをつくる大量生産に取り組み、ピアノ生産量を世界一にしました。



浜松科学館で会いましょう！

常設展 2 階展示「川上源一」

主な参考資料

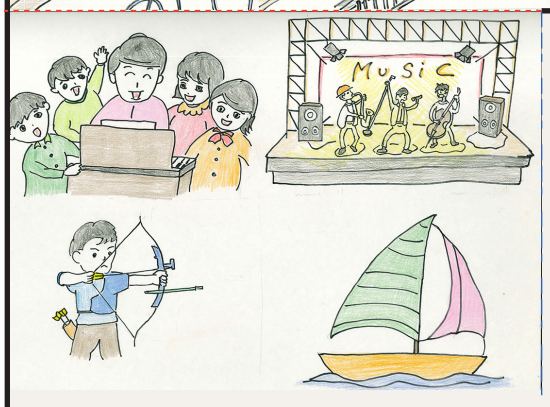
- 「私の履歴書」川上源一／日本経済新聞社掲載
- 「子どもに学ぶ 親と教師のために」「新・音楽普及の思想」川上源一／ヤマハ音楽振興会
- ヤマハ発動機ホームページ「やまものの木は知っている」

浜松科学館
Hamamatsu Science Museum

作成：2025 年　監修：ヤマハ発動機株式会社

浜松の偉人シリーズ　ミニ折本

「ヤマハ発動機」が、ヤマハのオートバイやボートをつくっています。その会社をつくった人が、川上源一です。



さらに、多くの日本人が音楽を楽しむ、余暇を楽しむようになればいいと思い、ヤマハ音楽教室やポピュラーソングコンテストなどを始めました。

また、余暇を楽しむ豊かさを日本に伝えたいと考え、源一はアーチェリー（洋弓）やボートなどもつくりました。

川上源一の仕事の特色は、「人々の生活や人生を豊かにする製品やサービスを提供する」という点にありました。

ここ浜松で、山葉寅楠が始めたオルガンづくりの工場が、川上源一をはじめとして、多くの人々の力により、「世界で活躍するヤマハグループ」となりました。

13

14

作成：浜松科学館　監修：ヤマハ発動機株式会社